

受験番号		氏 名		クラス		出席番号	
------	--	-----	--	-----	--	------	--

試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2012年度 第 3 回 全統マーク模試問題

国 語 (200点 80分)

2012年10月実施

注 意 事 項

- 1 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。必要事項欄及びマーク欄に正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。

① 受験番号欄

受験票が発行されている場合のみ、必ず受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。

② 氏名欄、高校名欄、クラス・出席番号欄

氏名・フリガナ、高校名・フリガナ及びクラス・出席番号を記入しなさい。

- 2 この問題冊子は、44ページあります。なお、問題は4問あり、第1問、第2問は「近代以降の文章」、第3問は「古文」、第4問は「漢文」の問題です。

なお、大学が指定する特定分野のみを解答する場合でも、試験時間は80分です。

- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

- 4 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、10 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

問題を解く際には、「問題」冊子にも必ず自分の解答を記録し、試験終了後に配付される「学習の手引き」にそって自己採点し、再確認しなさい。

河合塾

国

語

(
解答
番号
)

1

}

35

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 50)

ごく簡単に分類すれば、芸術の「役目」について多くの人々が抱いている、三つのステレオタイプな考え方があるように思う。一つは「娯楽としての芸術」というイメージ。贅^{ぜいたく}沢な料理、高価な衣服、立派な家具などと同様の、豊かで快適な暮らしのシンボルとしての芸術という考え方だ。それに対して、^A芸術が持つ「教化する力」というものを強調する人も、もちろん多い。芸術は洗練された快楽などではなく、人を叱咤^{しつた}し、啓蒙^{けいもう}し、より高きところに導くという、倫理的な芸術理解である。そして芸術のこの「教える力」をさらに熱くダイナミックにすると、「芸術が持つ人を感動させる力」というイメージが生まれる。これは特に音楽や映画においてよく見られるもので、たとえば年末に歌われる《第九》などはその典型だ。芸術は人々の輪を作り出し、人を励まし、明日を生きる勇気を与えてくれるというわけである。そして「芸術と生きる希望」について語ろうとするとき、人が真つ先に連想するのは、この「感動としての芸術」であるはずである。

「感動」とはまことに陳腐な、とりわけ昨今においては、口にするのがいささかためらわれるほど手垢^{てあか}がついてしまった言葉ではある。周知のように今や感動は巨大産業であり、映画やスポーツを見てうかつに感動しようものなら、まんまと大企業のマーケティング戦略にはまってしまうことになりかねない。いや、下手をすると権力による国民統制の罠^{わな}に絡め取られてしまうかもしれない。

だが、どれだけその胡散臭^{うさんくさ}さを警戒しようとも、芸術はやはり人を感動させる。心を震撼^{しんかん}させ、場合によっては人生まで変えてしまう力を持っている。幸か不幸か、そういう体験が訪れるのは、極めて稀なことであるにしても。「明日を生きる力をくれる」という表現は安手のポップスの歌詞のようであり使いたくないが、それでも芸術が時として人の生を凄まじい力で揺さぶることは、絶対に否定できない。

「高級娯楽ブランド品としての芸術」は、決して普遍的な力を持つことは出来ない、私は思う。だが他方、芸術の「教化する力」とやらの、多くの人にとって、どこことなく疑わしいきれいごとにしかならないはずだ。小学校の音楽カン^(カ)シヨウ^ウの時間

にベートーヴェンを聴かされたりしたとき。あるいは運動会で皆と一緒にダンスをやらされたとき。婉曲な形ではあるけれども、そこに学校教育につきものの、「いい子」として振る舞うことを強要してくる息苦しさを感じた経験を持つ人は、少なくないだろう。「(ベートーヴェンのような)立派な人間になりなさい」「(ダンスを通して)皆と協調できる人間になりなさい」。娯楽としての芸術が経済的特権性の象徴だとすれば、人々を教導くものとしてのその背後には、倫理的特権性が隠れている。それは暗黙のうちに「よき市民」を選別する。

だが同じような意味で、「感動させるものとしての芸術」にもまた、もしそれが人々を励まし勇気づけることしか意味しないのだとすれば、ある種の欺瞞ぎまんがつきまとうだろう。ベートーヴェンの《第九》も、ポピュラー・ソングの「が・ん・ばーって」といった歌詞も、あるいは最近流行の癒し系芸術いやしも、言ってみればすべてこうした「激励芸術」である。歌を聴いて、映画を見て、小説を読んで、感動して涙を流し、癒され、そして勇気を与えられる——考えてみれば、随分呑気のんきな話ではないだろうか。本当に絶望の果てにいるとき、映画から勇気をもらうような余裕など人に残っているのだろうか……。そこでは芸術は、一種の睡眠薬ないし刺激剤の代用物となる。B こうした安逸な消費をされるとき、「感動としての芸術」は「娯楽としての芸術」と紙一重になるのだ。こんな風に無害化されて飼い慣らされたものだけを、「芸術が与える感動」のすべてと思ってはならない。あえて言えば、芸術体験とは時として、極めてきな臭い、「危ない」ものである。

一つ例を挙げよう。(注1) リヒャルト・シュトラウスというドイツの作曲家が一九〇五年に書いた《サロメ》というオペラがある。今日なおこれは、とんでもなく煽情的な作品である。主役を歌う歌手が妖しいダンスを踊り、最後は預言者ヨカナーンの生首を歓喜の中で抱きしめ、それに接吻する……。私がこの作品を初めて舞台で見たのは、大学生の頃だった。幕が下りた後、まるで雷に打たれたようになって、放心状態でしばらく立てなかったことを覚えている。何という倒錯だろう！ 芸術的感動は何かしら倫理的な力と結びついていると、人は考えがちである。私もこの時まで、そう信じて疑わなかった。しかし《サロメ》のシユトラウスは、この通念をカン(イ)ブなきまでに打ち壊す。音楽がもたらす巨大な感動が、舞台上の眼を背ける光景と結びつくのである。人は心の底に潜んでいる狂気に対して、ここまで強く共鳴することが出来る（ここではあえて「感動」ではなく、「共

鳴」といおう)。その恐ろしさを、私は初めて知った。この時以来、「芸術がもたらす究極の感動とは、自分の中の何かが瓦解することなのかもしれない」と、私は思うようになった。

言うまでもなく私たちの日常とは、不断の自己保存の営為である。絶えず外敵から身を守り、隙を作らぬよう用心し、未知のものは慎重に排除し、自分にとって損にならないか値踏みし、そして計算と節約を^(ウ)オコタらず……。普段の私たちが考えていることの九割がたは、こうした「損得勘定」であるはずだ。だがこんな風にして生きているうちに、いつの間にか感性の表面が自我という名の殻によって分厚く覆われ始める。自分と世界の間の風通しが悪くなり、ついには遮断されて、息が出来なくなる。その時、濁った血がシン^(エ)センな酸素を求め、外の世界へ向けて自我のかさぶたを切り裂き、不条理な狂気をマグマのように噴出させるだろう。他者と合一したい、大いなる宇宙と一体化し、その中で消え去りたい。そんな自己滅却の衝動である。それはコミュニケーションなどという生易しいものではなくて、もっともつと不条理な暴力的衝動だ。それを「愛」と呼んでもいいだろう。

かつては恐らく、ミクロなレベルでは性が、マクロなレベルでは宗教が、この衝動の受け皿の役割を果たしてきたはずである。だが近代において宗教共同体はほぼ消滅し、性はありとあらゆる抑圧によってがんじがらめにされてしまった。そんな中で、かつて性／宗教が果たしていた役割を代行するようになったのが、芸術のもたらす「感動」ではないか。^Cしばしば芸術が、一方ではエロスと、他方では神と、絶えず緊密な関係を保ってきたのは、偶然ではないはずである。

現代音楽の祖とも言うべきオーストリアの作曲家シェーンベルクは、次のように述べた。^(注2)「物質主義、社会主義、無政府主義に満たされ、無神論者であったが、それでも昔の信仰の名残を少しばかり、迷信という形で残している今日の人間。彼らはいかに神と争い、ついには神を見出し、信仰を持つに至るか、祈ることを学ぶに至るのか……」。現代の娯楽産業は、何でもいいから大きな感情の渦と同化したいと欲する人々の「ニーズ」に合わせて、ありとあらゆる手軽なパック商品を提供してくれる。スポーツあり、音楽あり、映画あり。これらは確かに、シェーンベルクの言葉を借りれば「昔の信仰の名残を少しばかり迷信という形で残している今日の人間」の神に対するノスタルジーを、束の間満たしてくれはするだろう。だが本来、まだ文化産業によ

って飼い慣らされてはいない芸術は、とても危ういものだ。時としてそれは、生け贄^{にいづえ}が目の前で劫火^{ごうか}に焼かれるのを見るがごとき、全身が総毛立つような体験をもたらしかねないのである。

「究極の芸術体験とはそもそも、より大いなる生のために我が身を滅ぼすことで極彩色の宇宙を一瞬幻視し、それと一体になる至福を予感しながら破滅していくことだ」などと大真面目で書くことは、とりわけ今日、二重の意味においていかにもためらわれる。理由の一つは、あらゆるエクスタシー体験の常として、芸術がもたらす「感動」が本質において極めて身体的なものである。それを自分と共有していると思いき人との間では、言葉一つでコミュニケーションが成り立つ。しかし身体記憶の中に「芸術に打ち震えた」という経験を持たない人に対しては、言葉はほとんど用をなさない。概念言語のような明晰な伝達が出来ない。言葉でもって「あの」感覚を^(注)カンキさせることはほとんど不可能なのである。自分の感覚に忠実に言葉を選ぼうと思えば思うほど、本当に自分がそれを伝えたいと思う相手との言語コミュニケーションが難しくなっていく。ヘーゲル^(注3)がかつて音楽をそう揶揄^{やゆ}したところの「感情の『ああ……』と『おお……』」に言葉が退化していつて、呂律^{ろれつ}の回らない戯言になる。そんなジレンマに陥っていくのだ。

「絶望と至福と破滅」などという言葉を使うことへのためらいの、もう一つの理由については、多言を要すまい。「大いなるもののための自己滅却」といったセンテンスが現代人に真つ先に連想させるものは、現実の政治世界で毎日のように起きている悲劇の数々であろう。どんなことがあっても、「自己滅却」の安易な称揚だけは、絶対にしてはなるまい。だが自己を消すことに対する近代の過剰な恐れが、人々を自己保存の灰色の時間の中へとどんどん追い込み、そしてまさにそれ故に、抑圧された自己滅却の衝動が現実世界の中で突如として暴発してしまうという悪循環を引き起こしてきたこともまた、否定のしようがないのではないか。絶望の果てに、神性と合一できると信じ、老いた世界を浄化するための礎^{いしずえ}となる覚悟で、我が身を滅ぼす。こんな狂気が、実は芸術の創作や受容の中にも潜んでいる。

だが、幸いなことに、私たちは芸術によって命を落とすことは、まずない。私たちは芸術体験という死の儀礼を通して、再び蘇^{よみがえ}る。こちらの世界へ戻ってくる事が出来る。その時、自分の身体が、心が、隣人たちが、社会が、世界が、それまでとは

まるで違っ^Dて見えてくる。心の闇を引き受け、それを爆発させ、過去の自分を崩落させて、そして生き返らせてくれること。これが「芸術の与える生きる希望」について、それを信じてやまない私が、言葉でもって伝えることの出来る限界である。

(岡田^{おかだ}暁生^{あけお}「文学・芸術は生きる希望を与えてくれるか？」による)

(注) 1 リヒャルト・シュトラウス——ドイツの作曲家(一八六四～一九四九)。

2 シェーンベルク——オーストリアの作曲家(一八七四～一九五二)。

3 ヘーゲル——ドイツの哲学者(一七七〇～一八三一)。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

①
⑤

(ア)

カンシヨウ

①

- ① 大会でユウシヨウする
② 部員をシヨウシユウする
③ シヨウゾウ画を描く
④ シヨウキンを稼ぐ
⑤ アイシヨウが悪い

(イ)

カンブ

②

- ① 父母から授かった身体ハツプ
② 才能なきボンブとして生きる
③ 今月のシンブが発売される
④ ニンブに席を譲る
⑤ キツブを買う

(ウ)

オコタらず

③

- ① 前線からテツタイする
② シツタイを演じる
③ タイコウ車を避ける
④ ニンタイのいる仕事
⑤ タイマンな行政

(エ)

シンセン

④

- ① 心のキンセンに触れる
② 学業にセンシンする
③ センレツな印象を受ける
④ アクセン身につかず
⑤ センサイな感覚

(オ)

カンキ

⑤

- ① 記念行事のイッカンとして行う
② 証人をシヨウカンする
③ トウカンに付す
④ カンコツ奪胎する
⑤ カンタン相照らす仲だ

問2

傍線部A「芸術が持つ『教化する力』というものを強調する人も、もちろん多い。」とあるが、芸術の「教化する力」についての筆者の考えの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

- ① 「教化する力」は、芸術で人々を癒し相互に結びつけつつも、各自が他人と異なる自分を発見することを促す。
- ② 「教化する力」は、芸術を通して人格を高めるといった大義名分により、人々に特定のあり方を強いている。
- ③ 「教化する力」は、芸術が与える洗練された悦楽を倫理的な力と結びつけ、人をより高きところに導いていく。
- ④ 「教化する力」は、芸術による啓蒙という使命を果たすための方策として、人々に「よき市民」たることを要請する。
- ⑤ 「教化する力」は、芸術によって人々を道徳的に教え導くなかで、人の生を強く揺さぶり真の感動を与える。

問3

傍線部B「こうした安逸な消費をされるとき、『感動としての芸術』は『娯楽としての芸術』と紙一重になるのだ。」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

7。

- ① そもそも「芸術が与える感動」というものは、人々を励まし勇気づけることにほかならず、現代の娯楽産業がさまざまなに提供する芸術の悦楽とほとんど変わらないということ。
- ② 芸術体験のはらむ本質的な危険性を度外視し、安易に「娯楽としての芸術」を享受することは、芸術における商業主義の専横を容認することにつながりかねないということ。
- ③ 芸術を経済的な豊かさのシンボルと見なすことと同様に、商品化された芸術によって気楽に感動や癒しを得るような仕方では、芸術の本来の力を知ることにはできないということ。
- ④ 文化産業の発達により芸術が無害化されつつある現代社会においては、芸術は人々に感動を与えるものであるとともに、豊かで快適な暮らしの象徴にもなりうるということ。
- ⑤ 芸術が商品として手軽に消費されるようになると、「感動としての芸術」は倫理的特権性を失ってしまい、「娯楽としての芸術」に限りなく近づいていくことになるということ。

問4

傍線部C「しばしば芸術が、一方ではエロスと、他方では神と、絶えず緊密な関係を保ってきたのは、偶然ではないはずである。」とあるが、筆者がそのように言うのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 8。

- ① 自己を脅かす他者を慎重に排除し、いかに自己を保存するかに腐心するあまり、自我が硬化し外界から閉ざされてしまいがちなわれわれにとって、外界との生き生きとした交流を可能にするのが性や宗教だと考えられるから。
- ② 近代においては、自己を無にすることを過剰に恐れ、かえって自己滅却の衝動が暴発するという悪循環があり、芸術がもたらす感動だけではそうした衝動に対処することができないため、性や宗教の再興が求められているから。
- ③ 自己保存の営為に由来する自我の閉塞^{へいそく}状況を打開しようとして、世界との交感とそれによる自己消滅を求める衝動を満たしてきたのは性や宗教であったが、芸術のもたらす感動もまたその欲求を満たすと考えられるから。
- ④ 自己保存の営為から逆に自己滅却の衝動が生まれるという不条理を抱えて生きざるをえないわれわれは、これまでの性や宗教において「愛」と呼ばれているものによって、かろうじてその不条理と折り合うことに成功してきたから。
- ⑤ 宗教共同体がほぼ解体し、性が抑圧される近代において、芸術は、大いなる宇宙や他者と合一することで不断に自己を保存しようとするわれわれの抑えがたい衝動を受けとめてくれる唯一のものであると考えられるから。

問5 傍線部D「これが『芸術の与える生きる希望』について、それを信じてやまない私が、言葉でもって伝えることの出来る

限界である。」とあるが、ここで筆者はどういうことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 9。

① 芸術がもたらす感動はきわめて身体的なもので、芸術体験の本質を言葉で語ることは無意味であり、また現代社会において悲惨な結果を招きがちな自己滅却を安易に称賛することも本意ではないが、芸術がもたらす感動を通して自己の死を擬似体験することによって自己滅却の衝動の暴発が避けられるということは断言できる。

② 人々が自己保存に執心する近代では、自己滅却の衝動が抑圧されてしまい、悲劇的な形で自我を放棄してしまう例が跡を絶たないが、芸術の創作や受容にはそうした絶望的な営みと通底する部分があり、芸術の与える生きる希望について考えるには、芸術における自己の死と再生というテーマをさらに深く掘り下げていく必要がある。

③ 近代における破滅的な自己滅却の衝動に深く根差した究極的な形での芸術体験によってこそ、過去の自分が瓦解し未来へ新たに生まれ変わることが可能になるのだが、そうした芸術の感動を言葉で伝えようとしても、それを身体で受けとめた経験のない相手には決して伝わらないため、どんなに言葉を尽くしても空回りするばかりである。

④ 近代になって人々は自己滅却の衝動にかられるようになり、そのために芸術体験を通じた絶望と再生の至福を希求するようになったが、そうした体験は言葉では伝えきれない身体的なものであるため、それについてあえて語るには、自分自身の感覚を信じ続けることと、言葉で伝えようとする強い意志を持ち続けることが重要である。

⑤ 身体的な芸術体験を言葉で言い表すことは困難であり、現実世界での自己滅却を呑気に称揚してはならないが、自己滅却への過剰な恐れがかえって自己滅却への欲求の過激な発露を招く近代において、芸術体験における自己滅却が、自己の死を引き受けることを通してわれわれを新たな生へと導くということまでは言明しうる。

問6

この文章の論の展開に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

10。

① 芸術の持つ三つの役割を紹介し、現代における消費物としての芸術からそうした役割の一部が失われつつあることを筆者自身の体験から示した上で、近代人に特有の自己保存の営為と結びつけて、芸術に感動した人に新たな生をもたらすところが芸術の真の存在意義であると結論づけている。

② 芸術の役割についてのステレオタイプなイメージをめぐって具体的な事例をまじえつつ考察をおこなった後、筆者自身の体験に即して芸術体験の背徳的ともいえる危うい魅力を明らかにし、人間の自我の再生を促すという意味で、芸術の感動が人間に生きる希望をもたらすと結論づけている。

③ 「芸術と生きる希望」という問題を提起し、娯楽や教育ではなく、感動としての芸術による癒しや励ましが生きる勇氣や希望を与えると述べ、性や宗教が果たしてきた役割に言及しつつ、芸術体験における世界との合一によって新たな世界が開示されると結論づけている。

④ 芸術の役割についての類型を批判も交えながら紹介し、筆者独自の新たな分類を提示した上で、身体的な性質を持つ芸術体験と言葉の違和や自己保存に躍起になる近代人の特質を明らかにし、最終的に、芸術作品の価値は享受する側の自我のありようによって異なると結論づけている。

⑤ 芸術の役割を娯楽・教育・感動の三つに分類し、それぞれの長所と短所を挙げながら、芸術が与える感動が手軽な商品として消費されている現状に憂慮を示しつつ、現代社会においてもなお芸術体験が人類全体の生を更新するものとして機能し続けていると結論づけている。

(下書き用紙)

国語の試験問題は次に続く。

第2問

次の文章は、伊藤たかみの小説「サッチの風」の一節である。健一はレンタルビデオ店『グレープ』を経営しているが、食器洗浄機の購入をめぐる夫婦喧嘩から、妻の幸子が出て行ってしまおう。それから二週間近く経って、突然、電器店が食器洗浄機の据え付けにやってきた。幸子が無断で購入したものらしい。据え付け工事を担当する中年男は転職して日が浅いと見え、作業がごちない。売り上げ不振に陥った『グレープ』の資金繰りに苦勞する健一は、それを他人事とは思えずに見守っている。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。なお、本文の上の数字は行数を示す。(配点 50)

大学を卒業してからすぐは、とある都銀^(注1)に勤めていた。

健一は、ずっと逗子^(注2)の小さな支店で働いていたが、三十歳の誕生日に、さりげなく融資先の子会社へ出向をほのめかされた。

要するに、出世コースから弾かれてしまったのである。

飛び出すか、それとも今のサラリーのために耐え続けて働くか。

5 そんなふうに悶々^{もんもん}としていた夏、行内で作った自転車サークルで、合宿と称して逗子の海に行くことになった。

幸子は、健一たちのサークルがよく使っている、ショップの店員をしていた。とは言え、父親の店で社会勉強というやつだった。都内に七店舗を構えるオーナーの令嬢ということになる。もともと、いつも手を自転車の油で汚し、すっかり日焼けした姿は令嬢という言葉からはほど遠く、健一もそれと意識したことさえなかった。ただ、かわいい子だとか考えていなかった。

だからこそ彼女の前で、自然にしょげてみせることもできたのだ。

10 「A 駄目だな俺は。へこんだよ」

支店のそばに住んでいた健一は、その夏のバーベキュー大会を取り仕切った。コンロやキャンプ用の椅子を借りたり、食材やコークスの用意をしたりと、押しつけられたわけでもないのにすべて一人でやった。出世コースから外れてしまった自分の力を、そんなことで再確認したかったのかもしれない。

「……まさか、海岸でバーベキュー禁止だなんて思わなかった。みんなに迷惑かけちゃって、ほんとごめん。夜の花火も駄目だ

15 なんて、もう最悪だ」

健一の育った田舎では、そんな決まりなどなかった。大学時代の夏はずっと故郷ですごしていたため、都会のそばの海というものをほとんど知らない。思えば、海水浴客の多いこの時季に、逗子の浜を訪れたのさえ初めてだった。それほど仕事に忙殺されていた。

20 なのに、出世コースからは弾かれた――。ふつふつと怒りがこみ上げてきたが、しかし長続きしなかった。それは八月の中旬すぎで、海風の中にときどき、冷たい秋のひと筋が潜んでいたせいだ。

夏が終わるよとささやく風が、怒りを遠くへやってしまう。

ふがいなさだけが、心に残った。

「こんな場所でバーベキューだもん、そりゃあみんな怒るわ。子供連れもいるのにさあ、ご近所さんはこんなだし」

25 すぐそばには、青いビニールシートでできた家がたくさん並んでいた。ホームレスたちだ。彼らは道路と河口の間にあるコンクリートの段差、海でもなく道でもなく河でもないグレーゾーンで暮らしていた。そもそも、そういう場所だからこそ何とかバーベキューの体裁だけは整えられたのである。

海は何かのぞけるものの、どう見てもここは河口であり、地面は硬く、陽当たりも悪い。サークルの連中は、食事を終えようと逃げるように浜へむかってしまった。彼らの帰りを待ち、鉄板で焼きそばを焼いているのは健一と幸子だけだった。

「そんなこと言ったって、こっちのほうがお邪魔させてもらってるんだもん、仕方ないじゃん」

30 「やっぱり、何だか悪い」

「誰に悪いの」

「だから、ご近所さんに」

健一が、ホームレスたちのそばでバーベキューをするのを嫌がっていたのは、景観が悪いからではなかった。そうではなく、食うや食わずの生活をしているだろう彼らの隣で、じゅうじゅうと肉を焼き、ビールを飲んで騒ぎ、いろんな食べ残しをビニ

35 ルにまとめて捨ててしまうのが嫌なのだった。

「あの人たちがいると、非難されてるみたいで嫌なんだ。俺はただ、楽しみたいだけなのにさあ」

それに、ずっとこっちに背をむけて座ってるんだもん、無言の圧力だよ。そう言うのと、幸子は調理の手をしばし休めた。

「健ちゃんって、変なこと考えるね。逆でしょう。あの人たちは、私たちに迷惑かけないようにあっちむいてるんじゃないの？ 存在を消してるんじゃない」

40 「そうかなあ。煙もむこうにいくし、怒ってるんじゃないのかな」

幸子は、ぶつと嘔き出す。これだから男は、と笑った。

「**B** 健ちゃんって中途半端に気が弱くて、中途半端に優しいね。でも、それじゃ駄目だよ」

そして彼女はワインと、誰も飲もうとしなかったウイスキーを手にした。余った食材やおつまみも手に取る。まさかとは思ってたが、彼女はそれを持って彼らのほうへずんずんと歩き出した。健一も慌ててうしろからついていった。

45 彼女は、一番立派そうな家を選んでいるらしかった。目星をつけると、路上からビニールシートの屋根に声をかけた。呼ばれて中から出てきた男は、右の前歯がなかった。幸子は彼に、そこでバーベキューして迷惑だろうけど、これお裾分けすそわですと言って酒と食べ物を差し出した。

「よかったら、みんなで」

今にも男が怒り出すのではないかと気が気ではなかった。お前らに恵んでもらう筋合いはねえ、馬鹿にすんなと怒鳴られそう
50 で。

ところが意に反し、男は素直にすべて受け取ると屈託のない笑顔を見せた。

「悪いねえ。あ、それとき、バーベキューで出た灰は、地面に埋めると監視員がうるさいからね、持って帰ったほうがいいよ。」

面倒臭かったら、俺、やつといてやろうか。終わったら持ってきたな」

鉄板のところに戻ると、焼きそばはすっかり焦げついていた。まだ大丈夫そうなところをより分け、二人ですする。

55 「サッチは大胆なところあるわ」

ちらと川べりの家に目をやり、健一は言った。

「あのね。男が中途半端なのって一番いけないんだよ。勇気も優しさも、勝負どころで気前よく使わないと。そうしないと、ぐじぐじするだけで何もできなくなるもん」

「男と女でわけののって、やだな」

60 「だったら、人間すべて！」

彼女はいつものようにかんしゃくを起こした。けれども健一には慣れっこだったので、快く眺めた。

そして不意に、銀行はやはり辞めたほうがいいのかも思えない、と思った。そうだ、中途半端はよくない。いつそ小さいながらも店でも始めて、一国一城あるじの主になってもなってみるか。

いや、待て。今、自分にそんないい風が吹いてるのだろうか。転職して失敗し、結局はあのまま銀行に残っていたらなと後悔するのがア関ノの山ではないだろうか。

よし、それなら手始めに確かめてみよう。俺に吹いている風を確かめてみよう。

「なるほど、サッチの言うことも一理ある」

「でしょ」

「じゃあ俺も勝負してみるか。ごほん。ええと」

70 俺、サッチのこと好きだわ。健一は開けっぴろげに言った。

「つきあってくれたら、お前の言うこと全部信じる」

いつも動じない彼女だったのに、そのときばかりは取り乱した。顔を赤くし、さらに頬の赤が夕日で倍増された。どうしてこんなときに言うの、こんな、焦げた焼きそば食べてるときにと怒り出す。

怒りながら、照れていた。はにかみながら、怒っていた。

75 「どうして、私みたいな方がいいの。もー、どうするの！」

あ、風は吹いてるんだと健一は思った。

いい部屋ですねえ。食洗機を取りつけにきた男は、散らかったりビングを眺め回してつぶやいた。工事終了の書類に健一がサインをしているときだ。

80 「窓から、都庁も東京タワーも六本木ヒルズも、まとめて見えますね。いいですよ」

ええ、と健一は素っ気なく答える。元々、景色には大して興味がなかった。陽当たりと防犯上の理由でその階を選んだだけだ。もつとも幸子は、マンションのどんな設備よりもその景色を喜んでいたようだが。

「あなた、マンションとかくわしいんですか」

「ああ、いやあ。昔ねえ、持ってたんですよ。お恥ずかしいですが」

85 **C** 中年男は遠い目をした。健一の脱ぎ捨てたシャツや、いつのものかわからない新聞の夕刊、ビールの空き缶などをす

べて透かして、かつて彼が持っていたという一室を眺めているようだった。

失礼ですが、以前は何を？ 訊ききたかったが、何か悪いような気がして戸惑こっていると、いきなり玄関から人が入ってきた。

驚いたことにそれは幸子だった。

出ていったときに持ってた、大きなバッグを肩に提げたままだ。

90 「食洗機届くの忘れてた！」

家を出ていったことにも、帰ってきたことにも、まるで説明はなかった。健一も、それについて訊たずねたいと思わなかった。

「あ、奥様ですね。朝からすみませんでした。工事終了です」

「お疲れさまでした。もう、使えるの？」

彼女はシンクから汚れたコーヒークップを取り上げた。洗うものがそれしかないのが不満なようだ。

95 そこで幸子は、うしろの戸棚から汚れてもいない食器を取り出し、食器洗浄機にねじ込んだ。さっそく練習してみるとスイ

ツチを入れた。

「奥様、操作はわかります？」

「あ、すみません。もう大丈夫ですから。ご苦労様でした」

健一は玄関まで男を見送ってやった。

100

キッチンで、幸子は食洗機をのぞき込んでいた。

「本当にこれで洗えてるのかな。ちよつと開けて確かめてみようか」

扉に手を伸ばすと、幸子が慌てて止める。

「駄目だって。今、スチームが充満してるから、無理にドアを開けたら火傷するよ」

105

「サッチは初めて食洗機使うのに、どうしてくわしいの」

「そりゃ、しっかり調べたからね。衝動買いじゃないもん」

これで少しは時間の節約ができるでしょう。そうしたら私また外で働こうかなと思って。幸子は何かをごまかすように、じつと、水飛沫^{みずしぶき}のかかるコーヒークップを見つめたまま言った。

「私だけ家にいるの暇だから」

110

「へん」

健一はわざと気づかないふりをした。彼女は『グレープ』の売り上げがどうなっているのか、とつくに知っていたのだ。だから数年ぶりに、働きに出ることに決めたらしい。反省した。幸子を心配させたくないと思い、ずっと売り上げについては黙っていたのに。

所詮^{しよせん}、中途半端な優しさだったのかもしれない。

115

健一は、店を畳^{たた}む決心をした。(イ)潮時^{うしどき}だ。マンションを売ることになったって構うものか。アルバイトをしてでも、生きてやる。そして再び新しい店を作^{つく}ってやるさ。

だって、風はまだ吹いている。

幸子こそ健一の風だった。これが吹いている限りは、何だってやれる。

「よし、それじゃあ食洗機のついでに掃除機も買おうぜ。あるだろ、外国の。吸引力の衰えない唯一の掃除機ですってやつ」

120

「吸引力が上がったって、時間の節約にはならないじゃん」
無駄遣いは駄目だと一蹴^{いっしゅう}されたのだった。

幸子の風はシビアで、気まぐれで、読みづらかった。けれど再確認した。このかわいい風を捉^{とら}えようとあくせくすること、男というのはようやく正しくなれるようだ。

125

世界も社会も人生も戦争も年金も、ありとあらゆる問題より、この風を乗りこなすほうが難しい。
なのに、**D** この風にあおられるのが、もつとも心地よかった。

(注) 1 都銀——都市銀行のこと。

2 逗子——神奈川県南東部に位置する市。相模湾に臨む別荘地・海水浴場として発展した。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は 11 ゝ 13。

(ア) 関の山

11

- ① 精一杯のこと
- ② 最低限のこと
- ③ 標準的な見込み
- ④ 最悪の事態
- ⑤ 予想される難関

(イ) 潮時

12

- ① 流れにのって勝負する局面
- ② ちょうどよい時期
- ③ 力を蓄える局面
- ④ 心が満ち足りた時期
- ⑤ 流れに身をゆだねる局面

(ウ) 一蹴された

13

- ① 勝手な主張を繰り広げられた
- ② 予期せぬ反撃を受けた
- ③ 厳しい教訓を受けた
- ④ 小馬鹿にして否定された
- ⑤ 歯牙しがにもかかけずはねつけられた

問2

傍線部A「駄目だな俺は。へこんだよ」とあるが、この時の健一の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 仕事の上で認めてもらえない自分の力を試そうとして、バーベキュー大会を仕切ってみたが、そこで不都合が生じたことを素直に反省し、幸子に弱音を吐きつつも、ふがない自分を何とか立て直そうとしている。
- ② 仕事にしてもレジャーにしても、自分が一生懸命がんばればがんばるほど空回りして、事態が悪い方向に進んでしまうことを自覚し、これからどうしていいのかわからずに途方に暮れている。
- ③ バーベキュー大会の準備を自分で取り仕切ってみたものの、うまくいかなかったように、一生懸命やったつもりでも実績が伴わなかった以上、仕事で認められなかったのも当然であることを自覚し、落胆している。
- ④ 仕事で認められなくて悩んでいるさなか、そのせいもあってバーベキュー大会を一人で準備したところ、不手際から日当たりの悪い河口でバーベキューをするはめに陥り、皆に迷惑をかけたことに悄然しょうぜんとしている。
- ⑤ 仕事のことと悩んでいたために、自分が取り仕切ることにしたバーベキューの準備にも身が入らず、結局のところ、仕事もレジャーもすべてが中途半端なままであったことを自覚して、意気消沈している。

問3

傍線部B「健ちゃんって中途半端に気が弱くて、中途半端に優しいね。でも、それじゃ駄目だよ」とあるが、この時の幸子の心情の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

15。

- ① 気弱で優しいだけの不徹底な態度では周囲に認められないので、仕事に対しても他人に対しても徹底的に手厳しく強い態度で臨むべきだと思っている。
- ② 気弱なら徹底的に気弱さを貫き、自分のことを考えずに相手のことを最優先に考え、優しくするならば徹底的に優しくするべきだと思っている。
- ③ 生半可に相手のことを気づかって萎縮^{いしゆく}し、消極的になるよりも、相手のことをよく見極めたうえで積極的に行動に打って出る勇気が必要だと思っている。
- ④ 変に気を回してうじうじしているよりも、自分の主体的な意志を徹底的に貫き、相手のことより自分のことを考えて大胆に行動すべきだと思っている。
- ⑤ 弱気な態度で相手のことを配慮してくどくど考えてばかりいないで、時には、相手の思惑など気にせず切り込んでいく度胸も必要だと思っている。

問4

傍線部C「中年男は遠い目をした。」とあるが、それを見ている健一的心情の説明として最も適当なものを、次の①

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

① 部屋の見晴らしの良さをほめる中年男の言葉は軽く受け流したものの、転職して間もないと思われる男の境遇は他人事とは思えず、昔所有していた部屋の思い出に浸っているらしい男の事情について知りたいと思いつつも、逡巡している。

② 乱雑な部屋を「いい部屋だ」という中年男の皮肉に対しては、少し苛^{いら}立って素っ気なく応対したものの、かつて所有していたマンションの部屋への思いにふけついていると思われる男に同情し、どう声をかけてあげればいいのか戸惑っている。

③ 乱雑な部屋への皮肉が込められているとはいえ、中年男から「いい部屋ですねえ」と部屋の見晴らしの良さをほめられて、マンションを所有していたという男の過去だけでなく、部屋の見晴らしの良さを喜んでいた幸子のことも気にかかり始めている。

④ 部屋からの見晴らしの良さをほめて、昔マンションの部屋を所有していたことがあると語った中年男に対して、同情と興味を感じつつも、食洗機が届いたということは、そろそろ幸子が帰ってきてもいい頃だと思い、気もそぞろになっている。

⑤ 乱雑な部屋なのに「いい部屋だ」とお世辞をいいつつ、ここよりもっといい部屋に住んでいた過去への思いに浸っていると思われる中年男を前にして、自分も、転職やマンションの売却という問題に直面しているだけに興味を駆り立てられている。

問5 傍線部D「この風にあおられるのが、もっとも心地よかった。」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も

適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 17。

- ① 自分を導く存在である幸子と出会ってから、彼女の指示に従って将来的な決断を下してきたが、その結果、いつも自分にとって満足のゆく好ましい事態がもたらされてきたということ。
- ② 放胆な幸子の意志を読み取るとはこの上なく困難なことだが、幸子とのやりとりに導かれて、将来的な決断をしていくことが、自分にとっては好ましく適切なことに思えるということ。
- ③ 幸子は気まぐれで思慮深さに欠けるが、幸子に翻弄されていくうちに、深刻な問題に直面しても、いつのまにか確かな決断が導かれて、前に進んでしまうことが快適であるということ。
- ④ 世間的に思い通りにならないことがあっても、気まぐれでシビアだがかわいい幸子と一緒に生活しているという事実が、何にも増して自分に満ち足りた幸せをもたらしてくれるということ。
- ⑤ 幸子の気まぐれに合わせることは非常に困難であるが、心地よく、それにかまけているうちに、深刻な社会問題や人生的問題にかかわっている暇がなくなってしまうということ。

問6 この文章における表現の特徴の説明として適当なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問

わない。解答番号は

18

19

。

- ① 本文の前半部では、語り手が健一と幸子のなれそめについて客観的な立場から冷静に叙述し、後半部では、一転して健一に寄り添う視点から食洗機を導入する際の出来事を主観的に語るといふ手法をとっている。
- ② バーベキュー大会での出来事を契機に転職を決意した前半部と、食洗機の据え付けの際に店を畳む決心をした後半部は、それらの決断が、幸子との絆^{きずな}を強く実感する健一の心情と結びついて下されている点で共通している。
- ③ 21行目の「ささやく風」や66行目の「俺に吹いている風」といふ表現は、共に擬人法を用いて「風」といふ言葉を印象づけ、118行目の「幸子こそ健一の風だった」といふ健一の判断を導く伏線としての役割を果たしている。
- ④ 62行目の「中途半端はよくない」や114行目の「中途半端な優しさだった」などの「中途半端」といふ言葉の反復は、今後も中途半端な生き方からの脱却が最大の課題となると思われる健一の人生を暗示するものである。
- ⑤ 90行目の「食洗機届くの忘れてた!」という言葉の裏には、夫婦げんかで出て行った幸子が、戻ってくる気まずさを回避するために、わざと食洗機が届く頃合いを見計らって家に戻るといふ彼女なりの配慮が隠されている。
- ⑥ 107行目の「何かをごまかすように」や111行目の「わざと気づかないふりをした」といふ表現は、夫婦が互いに店の経営状態に関して気を遣^{つか}っていることに、両者とも気づいていて、各々が相手を思いやっているさまを表している。

(下書き用紙)

国語の試験問題は次に続く。

第3問 次の文章は、『苔の衣』の一節である。母に先立たれ、母の叔母である対の君と暮らす姫君のもとには、兵部卿宮

(宮) が通っていたが、兵部卿宮にはすでに正妻がいた。以下は、兵部卿宮との関係に苦しんで身を隠すことを決意した姫君が、その準備をする場面から始まる。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。(配点 50)

明けはてぬれば、「この暮れぞかし」と思おもひて、物の具など取りしたため給たまふ。何となく積もり **a** にける反故ほんぐどもを、かくてあらんも **ア** をこがましかりぬべければ、泣く泣く破り捨て給ふとて、

掻かき集つむるその水茎みづくきを見るたびに置き所なくかなしさぞ増す

宮は、帰かへり給ひても、心細こげなる有様御心にかからせ給ひて、「この暮れにも紛れ行かん」と思すほどに、春宮とうぐうの御方に御遊(注3)

びあるべしとて隙ひまなければいと口惜し。また、「今日明日、坊(注2)に居給ふべし」とて、かやうの御忍おりび歩きなどし給ふを、后(注3)の宮のいと後ろめたげにものし給へば、え強つよひてもおはせぬなるべし、 **X** 御文ばかりぞ遣よはす。昨夜よるべの有様など細やかにて、

A 飛鳥川あすか明日を逢あふ瀬と思ふにも夜の隔へてに身ぞ浮きぬべき

かしこには、御文を見給ふにも、いとどしき涙 **b** なり。まことに心地さへいと悪あしければ、

B 宵よの間に流れはてなば飛鳥川明日の逢ふ瀬を誰たれか待つべき

と書き出いだしつ。宮は、 **イ** 目も及およばぬ文字やうなどにこそあらね、なつかしうあはれなるさまに、ただうち思ひけることを乱れ書きたりけると見ゆる筆の流れなどを、「書きつらむよ」と向かひ給ふ心地して、あはれに思さる。

日も暮るるままに、「さても対の君に今一度心ひとこころのどかに対面たいめんなくてやみぬるよ。いとかなしきものにし給ひつるに、行方なくなしはいかに思ひ嘆き給はん」と心苦しけれど、いと若わかびあえかなる心にてものをいたくつましく思したるに、かばかりわづらはしげなることどもにて誰(注4)も誰も思ひむつかりたるを、一筋に置き所なくかはらいたくて、かばかり思ふべき人々をもふり捨て、「見えぬ山路(注5)」に思し立つなりけり。「いかならんにつけても憂き身を同じさまにて長らへば、心より外ほかにものはかなきさ

まにてさすらふこともやあらん。いでや、思ひとがめ給へ^cるあたりに『これゆゑいたづらになりける』と聞かれ奉らむ。今はとかくにかひあるべき身にあらざ」と思しなるにつけてもいとどかなしく、小太夫^{こたひふ}もはかなきものなど取りしたたむとて、あたりにはかばかりしき人もなければ、やをら帳^{ちやう}の中へすべり入りて、髪を掻き越して見給ふに、たをたととなつかしき手当たりにて筋なんげざやかなる。さすがに人知れずかなしくて、とばかり顔に手を押し当てつつ、鉢^{はち}も取られ給はねど、人見つけんが恐ろし^dければ、わななくわななく削^くぎはて給ひつ。枕^{すざり}なる硯^{すずり}の箱の蓋^{ふた}にうち入れて、その色紙紙^{しきしがみ}に、

C 浮き海布^めのみ見ゆる渚^{なみさ}を漕^こぎ離れ海人^{あま}の小舟^{をぶね}に急ぎ乗りぬる

「迎へに来にけり」と聞き給へば、いとど心慌たたくて、書きはつとしもなく、押しやり給ひぬ。「さらば、いたく更^{さら}け候^{きりう}はぬほどに、とく出でさせ給へかし」と言ひながら、小太夫もいみじうあはれと思ふ。「常よりことにこまやかに語らひ給ひつる今朝の面影にも別れ奉りぬるよ」と、なほかなしくて乗りもやられ給はず。憂き古里も、「今は」と思すには、目のみとまりて、

D 憂きながらかなしきものは限りとて馴^なれにし里を出づるなりけり

と書き付けて、帳^{ひも}の紐^{ひも}に結び付け給ふ。ある人々には^(ウ)あからさまにものへ参り給ふよし言はせ給へば、驚くこともなし。はかなき櫛^{くし}の箱一つばかりを取り具して、やがて小太夫ばかりぞ乗りぬる。

(注) 1 帰り給ひても——兵部卿宮は、この前夜に姫君のもとを訪れていた。

2 坊——春宮の御所。

3 后の宮——兵部卿宮の母。

4 誰も誰も——兵部卿宮の正妻側の人々を指す。

5 見えぬ山路——「世の憂き目見えぬ山路へ入らむには思ふ人こそほだしなりけれ」(『古今和歌集』雑下・物部良名)を踏まえる。

6 小太夫——姫君の侍女。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の解釈として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

20
～
22。

(ア) をこがましかりぬべければ

20

- ① みつともないにちがいないので
- ② 愚かなことではないだろうから
- ③ おろそかにしてもかまわないので
- ④ さしでがましいと思われるから
- ⑤ 放^{ほう}つておくことはできないので

(イ) 目も及ばぬ文字やうなどにこそあらね

21

- ① 見るにたえないほど乱雑な文字ではあるけれど
- ② 見れば見るほど下手な文字ではあるけれど
- ③ 見たこともないほどすばらしい文字ではないけれど
- ④ 目が釘付けになるほど見事な文字でもあるので
- ⑤ これといって目にとまるほどの文字ではないので

(ウ) あからさまなものへ参り給ふ

22

- ① 表向きは寺などへお参りになる
- ② 願いがかなって物詣^{ものもと}でなさる
- ③ 人目を避けてよそへお出かけになる
- ④ ほんのちよつとどこかへお参りしなさる
- ⑤ 急ぎの用件で人のもとへおいでになる

問2 波線部 **a** ～ **d** の文法的説明の組合せとして正しいものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。 解答番号は

23

①	a	完了の助動詞	b	断定の助動詞	c	完了の助動詞	d	形容詞の一部
②	a	完了の助動詞	b	動詞	c	完了の助動詞	d	形容詞の一部
③	a	完了の助動詞	b	断定の助動詞	c	動詞の一部	d	過去の助動詞
④	a	断定の助動詞	b	動詞	c	動詞の一部	d	形容詞の一部
⑤	a	断定の助動詞	b	伝聞・推定の助動詞	c	動詞の一部	d	過去の助動詞

問3

傍線部X「御文ばかりぞ遣はす」とあるが、兵部卿宮がこのようなした理由の説明として最も適当なものを、次の①

⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

- ① 姫君が何か言いたそうだったのは気になったが、春宮と管弦の遊びをする約束をしていたうえ、正妻をないがしろにしていると母后にとがめられ、姫君のもとに行くのが難しかったから。
- ② 姫君の不安そうな様子が気になったが、春宮の催す管弦の遊びに参加せねばならず、また、母后が自分のひそかな外出をひどく心配に思っていることもあって、姫君のもとに行くに行けなくなったから。
- ③ 姫君のところへ出かけようとした夕暮れに、春宮から管弦の遊びに招かれその機会を逸してしまったが、前夜も訪れたので、今夜は姫君に手紙を送るだけでもかまわないだろうと思ったから。
- ④ どこか悲しそうだった姫君のことが気になり出かけようとしたが、姫君との恋を快く思わない母后が、春宮の催す管弦の遊びにかこつけ、無理にでも姫君のもとに行かせないようにしたから。
- ⑤ どうしても姫君の顔が見たかったが、春宮の催す管弦の遊びの準備をするのに手間取り、また、自分が邸^{やしき}にいるかどうか、母后が見張っていたため、姫君のもとに行くのは無理だとあきらめたから。

問4 傍線部Y「削ぎはて給ひつ」に至る姫君の心情の説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解

答番号は 25。

- ① 自分をかわいがってくれた対の君に別れを告げないまま姿を消したら、さぞかし対の君を悲しませることになるだろうと胸を痛めた。
- ② 兵部卿宮が通ってくることによって、その正妻側の人々から不愉快な存在だと思われるので、ひたすらいたたまれずどうしようもなかった。
- ③ これまでと同じようにこのまま俗世間で暮らしていくとすれば、不本意な様子でみじめにさまようことになるかもしれないと悲観した。
- ④ 侍女の小太夫がちよつとした用事で離れてそばにいない間、まわりに引き止める人もいないので、今なら髪を切るこ
とができると思った。
- ⑤ 御帳の中で、肩の前に回した髪を見ると、つらかった兵部卿宮との日々が思い出され、この髪とともにその恋を断ち
切ろうと決心した。

問5

AとDの歌の表現と内容に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

26。

① A・Bの「飛鳥川」は、定めない世のたえとして用いられることの多い地名で、姫君と兵部卿宮が、自分たちの仲はどうなっていくのか、無常なこの世ではわからないと思っていることを暗示している。

② Aの「川」「瀬」「浮き」は縁語で、今夜は姫君に逢えないために自分の涙が川となり、そこに我が身が浮いてしまいそうだという兵部卿宮のつらい気持ちが表示されている。

③ Bの「流れ」は「泣かれ」との掛詞かけことばで、泣いた涙が川となり、夜の間には我が身が流れていつてしまっても、いつかまた逢瀬がかなう日を待とうという姫君の兵部卿宮への恋の思いが詠まれている。

④ Cの「浮き海布」「渚」「海人」はそれぞれ「憂き目」「無き」「尼」との掛詞で、つらい目にあった場所を離れ、悲しみのない所に行つて尼になるのだという姫君の決意が詠まれている。

⑤ Dの「憂きながらかなしきものは」「限り」を導く序詞じよしで、いよいよ住み慣れた家を出て行き、もうこれまでの暮らしには戻れなくなるという姫君の嘆きが強調されている。

問6 この文章の表現の特徴と内容、および文学史に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 27。

① 平安時代に盛行した歌物語の流れをくみ、登場人物の心情が五首の和歌によってきめ細やかに表されているが、なかでも姫君と兵部卿宮との間に交わされた和歌に、この物語の主題である、一夫多妻の時代における女の苦悩が示されている。同じ鎌倉時代に成立した作品に、藤原道綱母の『蜻蛉日記』がある。

② 平安時代に盛行した作り物語の流れをくみ、姫君の言動には、「取りしたため給ふ」「破り捨て給ふ」といった尊敬語が用いられる一方、侍女の小太夫の言動には、「乗りぬる」のように尊敬語が用いられておらず、身分差による厳密な敬語の使い分けがなされている。同じ鎌倉時代に成立した作品に、清少納言の『枕草子』がある。

③ 平安時代に盛行した作り物語の流れをくみ、「隙なければいと口惜し」「あはれに思さる」「なほかなしくて」のように形容詞・形容動詞が多用されると同時に、「見えぬ山路」といった古歌を踏まえた表現が用いられ、心情表現を重視した叙情的な文体で記されている。同じ鎌倉時代に成立した作品に、阿仏尼の『十六夜日記』がある。

④ 平安時代に盛行した歴史物語の流れをくみ、登場人物は主人公以外にも対の君・春宮・後の宮・小太夫など多数におよび、そういった人々の異なる思惑が、それぞれの立場からの発言によって表されることで、物語に奥行きが生じている。同じ鎌倉時代に成立した作品に、後深草院二条の『とはすがたり』がある。

⑤ 平安時代に盛行した歴史物語の流れをくみ、「誰も誰も思しむつかりたる」「やをら帳の中へすべり入りて」などの人物の行動を中心にした叙事的で簡潔な文体で記されることによって、みずからの運命に抗えない登場人物たちの様子が印象づけられている。同じ鎌倉時代に成立した作品に、鴨長明の『方丈記』がある。

第4問 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。（設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。）
（配点 50）

宋文帝時、司徒義康顯総朝権。四方饋遺、皆以上品薦義康、而

以次品供御。上嘗冬月啖柑、嘆其形味並劣。義康曰、「今年柑殊

有佳者。」遣人還東府取柑、大供御者三寸。上寢不能平、義康

旋以^{カヘツテ} X ^{セラル} 廃。

唐代宗謂李泌曰、「路嗣恭献琉璃盤九寸、乃以径尺者遺元載。」

須^{マチテ}其^ノ至^ル議^{セント}之^ヲ。」頼泌一言、嗣恭免^レ X ^{シテ}而元載竟誅^{ツヒニチゆうセラル}。

呂許公不肯多進淮白魚。蓋懲此也。

秦檜之夫人、常入禁中。顯仁太后言、「近日子魚大者絶少。」夫人

対^ヘ曰^{ハク}、「妾家有^レ之、当^{ハク}以^ニ百尾^一進^上。」^C 帰^{リテ}告^グ檜^ニ、檜^ニ咎^{とがム}其^ノ失言^ヲ。与^ニ其^ノ館^ノ客^一謀^{はかりテ}、進^ム青魚^{（注13）}百尾^一。顕^{ハク}仁^ニ拊^フ掌^ヲ笑^{ヒテ}曰^{ハク}、「我道^{おもへりこ}這^ニ婆^ば子^{（注16）}村^{（注16）}、果^{シテ}然^{リト}。」蓋^シ青魚^ハ似^テ子魚^ニ而^{ナリ}非^{ナリ}。特^た差^や大耳^{ナルのみ}。觀^{レバ}此^ヲ、賊檜^ニ之^ノ姦^ニ可^シ見^ル。

（羅大經『鶴林玉露』による）

（注） 1 宋文帝・唐代宗——「宋文帝」は南朝宋の皇帝、文帝。「唐代宗」は唐の皇帝、代宗。

2 司徒義康——「司徒」は官職名。「義康」は文帝に仕えた劉義康のこと。

3 饋遺——贈る。

4 供御——皇帝に献上する。

5 東府——司徒が職務を行う役所。

6 寸——長さの単位。「尺」の十分の一。

7 李泌——唐の代宗に仕えた人物。代宗の信任が厚かった。

8 路嗣恭——唐の代宗に仕えた人物。

9 琉璃盤——ガラス皿。

10 径——直径。

11 元載——唐の代宗に仕えた人物。専横な振るまいが多かった。

12 呂許公——宋の仁宗に仕えた人物、呂夷簡。

13 淮白魚・子魚・青魚——いずれも魚の名。「淮白魚」「子魚」は高級魚で、「青魚」は大衆魚であった。

14 秦檜——宋の高宗に仕えた人物。宋は北方遊牧民の建てた金に圧迫されていたが、その金と屈辱的な和平を結んだことで知られる。

15 顕仁太后——宋の皇帝、高宗の母。

16 婆子村——「婆子」は女性を指す語。「村」は相手をあざける語。

問1 傍線部(1)「殊」・(2)「絶少」の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は 28・29。

(1) 「殊」

28

- ⑤ ④ ③ ② ①
- もとより すっかり ちょうど とりわけ ますます

(2) 「絶少」

29

- ⑤ ④ ③ ② ①
- 極めてまれだ 値段が安い やたらに大きい 鮮度が落ちる 味が淡泊だ

問2 傍線部A「遣人還東府取柑、大供御者三寸」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

30。

- ① 遣_ミ人還_ミ東府取柑、大供御者三寸
人をして東府に取る柑を還さしむれば、大なること供御する者より三寸なり
- ② 遣_下人還_ミ東府取_モ柑、大_ミ供御者三寸
人の東府に還して柑を取るに遣はしむれば、供御する者より大なること三寸なり
- ③ 遣_レ人還_ミ東府取柑、大供御者三寸
人を遣はして東府の取る柑を還さしむれば、大なること供御する者より三寸なり
- ④ 遣_下人還_ミ東府取_モ柑、大_ミ供御者三寸
人をして東府に還りて柑を取らしむれば、供御する者より大なること三寸なり
- ⑤ 遣_レ人還_ミ東府取_レ柑、大供御者三寸
人を遣はして東府に還りて柑を取らば、大なること供御する者より三寸なり

問3 本文中の二箇所の空欄 **X** にはどちらも同じ語が入る。その語を次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。解答番号は **31**。

- ① 罪
② 功
③ 恩
④ 賞
⑤ 偽

問4 傍線部 **B** 「呂許公不_ミ肯多進_ミ淮白魚」の解釈として最も適当なものを、次の ① ～ ⑤ のうちから一つ選べ。解答番号は **32**。

- ① 呂許公は淮白魚を少しも献上しようとしなかった。
② 呂許公は淮白魚を強いて数多く献上しようとした。
③ 呂許公は淮白魚を数多く献上しようとはしなかった。
④ 呂許公は淮白魚を思い切ってすべて献上しようとした。
⑤ 呂許公は淮白魚をそれほど多くは献上できなかった。

問5 傍線部C「妾家有^レ之、当^下以^二百尾^一進^上」の書き下し文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 33。

- ① 妾の家に之を有^{たも}つ、百尾を以て進むに当^{あた}るべし
- ② 妾の家に之有^あり、当に百尾を以て進むべし
- ③ 妾の家に之有るも、百尾を以て進むに当るか
- ④ 妾の家に之有り、当に百尾を以て進めんとす
- ⑤ 妾の家に之有るも、当に百尾を以て進むべけんや

問6 傍線部D「頭仁拊^レ掌笑」とあるが、頭仁太后が笑った理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ

選べ。解答番号は 34。

- ① 頭仁太后自身が、高級魚の子魚と大衆魚の青魚とを混同していたことに気づき、おかしかったから。
- ② 頭仁太后自身が、高級魚を贈られて初めて秦檜の夫人を誤解していたことに気づき、自分を恥じたから。
- ③ 秦檜の夫人が、自分の独り言の真意を理解して高級魚を送り届けてくれたのでありがたいと思ったから。
- ④ 秦檜の夫人が、大衆魚の青魚として贈ってくれたものが実は高級魚だったのでうれしかったから。
- ⑤ 秦檜の夫人が、大衆魚の青魚を高級魚の子魚と勘違いしているのだと思い、愚か者だと確信したから。

問7

この文章は全部で四段落からなっている。各段落の構成についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ① 献上品にまつわる逸話を第一・第二段落で紹介した上で、それに憧れた呂許公の行動を第三段落に示し、第四段落ではこれらの事例を顧慮せずに献上品を贈った秦檜の行動を述べ、秦檜がいかに愚かな人物であったかを強調する構成となっている。
- ② 献上品にまつわる逸話を第一・第二段落で紹介し、それを戒めとした呂許公の行動を第三段落で示した上で、第四段落では献上品を贈らざるを得なくなった際の秦檜の巧みな対処について述べ、秦檜の狡知こうちを際立たせる構成となっている。
- ③ 献上品にまつわる逸話を第一・第二段落で紹介してから、それと同じ過ちを犯した呂許公について第三段落で触れ、第四段落では献上品を贈る際に呂許公とは対照的に過ちを犯さなかった秦檜について述べ、秦檜の聡明さを称賛する構成となっている。
- ④ 献上品にまつわる逸話を第一・第二段落で紹介しながら、それを嫌ってまったく異なった対応をした呂許公の事例を第三段落であげ、第四段落では献上品を出し惜しんだ秦檜について述べ、秦檜の物欲の強さを批判する構成となっている。
- ⑤ 献上品にまつわる逸話を第一・第二段落で紹介し、それを真似て同様の振る舞いをした呂許公の事例を第三段落で示し、第四段落では要求があるまで献上品を贈ろうとしなかった秦檜について述べ、秦檜の慎重さを褒めたたえる構成となっている。

